

## 一九九九年出土の木簡

### 概要

今年も例年のように、昨年の研究集会で「一九九九年全国出土の木簡」として報告した事例を中心に、計九二もの遺跡から出土した木簡を掲載することができた。発掘調査やその後の整理作業で多忙の中、貴重な原稿をお寄せいただいた執筆者の諸氏・関係機関の方々に、心から御礼申し上げる。

この九二という件数は、これまでで最多である。従来の最多件数は、昨年度の七八遺跡であったから、二年連続で最多件数を更新したのみならず、昨年よりも一気に一四件も件数が増加したことになる。別表の通り、地域的にも時代的にも、多種多様な遺跡から多くの木簡が出土している。

さて、以下に出土木簡の概要を、時代を追って簡単に紹介する。

まず都城遺跡出土の木簡で特筆すべきは、難波宮跡から、前期難波宮関連の木簡がまとまって出土したことである。「戊申年」（六四八）の年紀は、日本の紀年銘木簡としては現在最古級のものであり、

七世紀中期にさかのぼる一括資料として、前期難波宮の評価ともかためて注目されることである。

また昨年の本誌第二一号では、「主要な古代都城遺跡からの出土が全くない」ことが言われたが、本年はいわゆる「お馴染み」の都城遺跡からも多くの木簡が出土している。平城宮跡からは東院地区南門前より、「私門」とある木簡が出土した。平城京跡左京一条三坊十三坪からは、九世紀の木簡が出土している。暦に関するもの、人名記載のある人形多数などがあり、九世紀における平城京内の様相を考えさせる資料でもあろう。また宮町遺跡・長岡京跡からも多数の木簡が出土している。特に長岡京跡は、造営に関する木簡を含み、整理中のため本号に掲載できないものも多数存在する。全貌の公開が待たれるところである。また長岡京からは完形の物忌札が出土している。大分県飯塚遺跡からも完形の物忌札が出土したと併せて、物忌札の実例を示す興味深い資料である。平安京穀倉院跡からは、「長上工」の記載がある木簡が出土し、注目される。

地方に目を転ずれば、多様な遺跡から多数の古代木簡が出土している。内容に不分明な点もあるが、滋賀県十里遺跡出土の木簡は

1999年出土の木簡

遺 跡 名	所 在 地	点 数	木簡の年代	遺跡の性格
平城宮跡	奈良県奈良市	296	古 代	都 城
西隆寺跡	奈良県奈良市	1	古 代	都城・寺院
阿弥陀浄土院跡	奈良県奈良市	7	古 代	寺 院
平城京跡左京一条三坊十三坪	奈良県奈良市	64 + α	古 代	都 城
旧大乘院庭園	奈良県奈良市	1	近 世	庭 園
奈良町遺跡（平城京跡左京四条六坊十四坪）	奈良県奈良市	1	近 世	都城・都市
※ 上宮遺跡	奈良県斑鳩町	1	古 代	官 衙
長岡京跡	京都府向日市	181	古 代	都 城
平安京穀倉院跡	京都府京都市	23	古代・近世	都 城
※ 六波羅政庁跡	京都府京都市	1	中 世	溝
平安京跡右京五条一坊六町	京都府京都市	1 + α	古 代	都 城
難波宮跡	大阪府大阪市	32	古 代	都 城
大坂城跡	大阪府大阪市	43	近 世	城下町・城郭
※(○)池島・福万寺遺跡	大阪府東大阪市	5	中 世	水 田
※ 吉井遺跡	大阪府岸和田市	1	古 代	集 落
※○時友遺跡	兵庫県尼崎市	2	中 世	集 落
○明石城武家屋敷跡	兵庫県明石市	2	近 世	城 下 町
姫路駅周辺第四地点遺跡（仮称）	兵庫県姫路市	1	古 代	集 落
※○龍野城跡	兵庫県龍野市	3	近 世	城 郭
※ 市辺遺跡	兵庫県氷上町	18	古 代	官 衙 関 連
○宮内堀脇遺跡	兵庫県出石町	13	中 世	屋敷・水田
※○梶原遺跡	兵庫県山東町	1	中 世	集 落
祢布ヶ森遺跡	兵庫県日高町	4	古 代	官 衙
※○雲出島貫遺跡	三重県津市	1	古 代	居 館
※ 山の神遺跡	静岡県浜松市	1	中 世	集 落
※ 中村遺跡	静岡県浜松市	11	古代・中世	官 衙 関 連
※ 水守遺跡	静岡県藤枝市	3	古 代	官衙・集落
※○元島遺跡	静岡県福田町	8	中 世	集 落
※ 千代南原遺跡第Ⅶ地点	神奈川県小田原市	2	古 代	包 含 層
※ 香川・下寺尾遺跡群（下寺尾地区北B地点）	神奈川県茅ヶ崎市	1	古 代	祭祀遺構・河 道
※○港区No91遺跡	東京都港区	1	近 世	城 下 町
※○水戸藩徳川家小石川屋敷跡（諏訪町遺跡）	東京都文京区	8	近 世	城 下 町
※ 西町遺跡	東京都台東区	6	近世・近代	城 下 町
※○浅草芝崎町遺跡	東京都台東区	6	近 世	城 下 町
※ 入谷遺跡	東京都台東区	4	近 世	寺院・町屋
○宮町遺跡	滋賀県信楽町	475 + α	古 代	都 城
○大將軍遺跡	滋賀県草津市	1	古 代	官衙・集落
※○安土城跡	滋賀県安土町・能登川町	1	近 世	城 郭
※ 十里遺跡	滋賀県栗東町	3	古 代	官衙・集落
※○前六供遺跡	群馬県新田町	1	古 代	集 落
※ 荒井猫田遺跡	福島県郡山市・安積町	80 + α	中 世	都市・居館
※ 江平遺跡	福島県玉川村	1	古 代	集 落
大日南遺跡	宮城県多賀城市	3	中 世	屋 敷

1999年出土の木簡

○市川橋遺跡	宮城県多賀城市	2	古	代	都	市
○山王遺跡	宮城県多賀城市	2	古	代	都	市
※○新田遺跡	宮城県多賀城市	4	中	世	集	落・居館
柳之御所遺跡	岩手県平泉町	2	古	代	居	館
志羅山遺跡(1)	岩手県平泉町	2	古	代	都	市
志羅山遺跡(2)	岩手県平泉町	3	古	代	屋	敷
山田遺跡	山形県鶴岡市	1	古	代	集	落
※○十三湊遺跡	青森県市浦村	1	中	世	集	落
※高塚遺跡	福井県小浜市	1	古	代	官	衙
一乗谷朝倉氏遺跡	福井県福井市	1	中	世	城	下町
福井城跡(1)	福井県福井市	約34	近世・近代		城	郭
○福井城跡(2)	福井県福井市	44	近	世	城	下町
※観法寺遺跡	石川県金沢市	1	古	代	集	落・道路
※畝田・寺中遺跡	石川県金沢市	2	古	代	集	落
堅田B遺跡	石川県金沢市	1	中	世	居	館
※高岡町遺跡	石川県金沢市	3	近	世	集	落・屋敷
※須田藤の木遺跡	富山県高岡市	3	古	代	官	衙
東木津遺跡	富山県高岡市	5	古	代	集	落・官衙
※手洗野赤浦遺跡	富山県高岡市	1	中	世	集	落
※○八塚C遺跡	富山県大島町	1	中	世	集	落
※(○)道場I遺跡	富山県婦中町	2	中	世	集	落
※○竹直神社遺跡	新潟県吉井町	1	中	世	流	路
※箕輪遺跡	新潟県柏崎市	6	古	代	官	衙
※(○)馬越遺跡	新潟県加茂市	3	古	代	集	落・官衙
※大武II遺跡	新潟県輪島市	2	中	世	流	路
※馬見坂遺跡	新潟県新発田市	1	古	代	遺	物散布地
発久遺跡	新潟県笹神村	2	古	代	官	衙
※妻ノ神遺跡	新潟県豊浦町	3	中世・近代		集	落
※○野中土手付遺跡	新潟県加治川村	2	中	世	集	落
※船戸桜田遺跡	新潟県中条町	4	古	代	集	落・祭祀
中倉遺跡	新潟県中条町	1	中	世	集	落・流路
(○)大御堂廃寺(久米寺)	鳥取県倉吉市	9	古代・中世		寺	院
※大坪遺跡	鳥根県松江市	3	古	代	湿	地
※○喜時雨遺跡	鳥根県津和野町	1	中	世	集	落
○岡山城二の丸跡	岡山県岡山市	6	中世～近世		城	下町
鹿田遺跡	岡山県岡山市	3	古代～中世		集	落
※土居遺跡	広島県東広島市	2	中	世	城	館
※郡山城跡(大通院谷地区)	広島県吉田町	1	中	世	城	館
○萩城跡(外堀地区)	山口県萩市	32	近	世	城	下町
○周防国府跡	山口県防府市	7	古	代	官	衙
※東禅寺・黒山遺跡	山口県山口市	1	中	世	集	落
※敷地遺跡	徳島県徳島市	1	古	代	居	館
※徳島城下町跡	徳島県徳島市	100+α	近	世	城	下町
元岡遺跡群	福岡県福岡市	1	古	代	製	鉄跡
※今山遺跡	福岡県福岡市	3	古	代	港	湾
※○長安寺廃寺跡	福岡県朝倉町	5	古	代	寺	院
※飯塚遺跡	大分県国東町	50	古	代	集	落
※中原遺跡	佐賀県唐津市	2	古	代	集	落・水田
※○銘苅直禄原遺跡	沖縄県那覇市	2	中	世	遺	物包蔵地

※は木簡新出土遺跡

○は1998年以前出土遺跡

(○)は1998年以前出土もある遺跡

「乙酉年」の年紀を持ち、六八五年に比定されている。また大阪府吉井遺跡出土の木簡も、判読困難な部分もあるが、「天平宝字三年」（七五九）銘を持つ文書木簡である。郡衙関連遺跡と考えられる兵庫市辺遺跡からは、奈良時代前期の木簡が多数出土した。封緘木簡のほか、多様な内容を含んでおり、地方木簡の多様性が窺われる。同じ兵庫県の祢布ヶ森遺跡からは、「承和元年」（八三四）の年紀を持つ題籤軸・死亡帳の題籤軸のほか、「千字文」の習書木簡も出土している。

東日本方面では、神奈川県千代南原遺跡からは、米の出納の記録簡などが出土している。群馬県前六供遺跡出土木簡も、物品の出納に関する記録簡だろう。福島県江平遺跡からは、『続日本紀』天平一五年（七四三）正月癸丑条にみえる、金光明最勝王經の転読に係すると思われる木簡が出土した。国家の仏教政策と在地の寺院との関係を考えさせる資料である。山形県山田遺跡出土木簡は、習書の部分もあり、歴名を記した記録簡の部分もある。難しい資料だが、一次史料である木簡ならではの醍醐味がある。また、平泉の奥州藤原氏関連の遺跡からも、多くの木簡が出土している。岩手県柳之御所遺跡からは墨書のある折敷のほか、銅印も発見された。岩手県志羅山遺跡からは片仮名書きの文書木簡が出土しており、「礫石経」に関する、興味深い内容を有する。

石川県畝田・寺中遺跡出土木簡は、出挙に関するものと思われ、

その実体を考える資料となろう。墨書土器「津司」の出土も注目される。富山県須田藤の木遺跡は、初期荘園として名高い東大寺領須加荘の故地に比定されており、同荘の考察の上でも欠かせない。新潟県箕輪遺跡からは、「牒」の木簡二点などが出土した。また同じ新潟県の発久遺跡からは、「健児」の木簡が出土している。

西日本方面からも、多くの木簡が出土している。山口県周防国府跡からは、墨書はないものの封緘木簡が出土した。福岡県元岡遺跡群出土木簡は、祓えに用いる物品を書き上げたもので、祓えの基礎資料となりうる。また大分県飯塚遺跡からは、五〇点もの木簡が出土した。農業経営に関するもの、木製品・金属製品の製作に関するものなど、多様な内容を含む。地方木簡の一形態を示すものとしても、また九世紀の木簡の事例としても、貴重な資料である。佐賀県中原遺跡出土の木簡は「大村」の記載が見え、『延喜式』兵部省式所載の大村駅を指すのかどうか、注意される。

中世木簡について述べれば、大阪府池島・福万寺遺跡出土の塔婆は、六枚の塔婆が横木で束ねられた状態で出土した。塔婆の一形態を示し、興味深い。兵庫県宮内堀脇遺跡からは、呪符・柿経や、三宝に墨書したものなど、中世武家屋敷における信仰・生活を窺わせる遺物が出土している。富山県道場Ⅰ遺跡からは、山札・茅札とも思われる木簡が出土している。岡山県鹿田遺跡からは、杭に面取りをした、供養碑様のものが出土している。沖縄県銘苅直禄原遺跡出

土の呪符は、沖縄の「フーフダ」を考える上で興味深い。また、呪符・笹塔婆などは例年通り各地から多く出土している。

近世木簡は、近世都市を中心に出土している。平安京穀倉院跡からは、京都町奉行所に関する木簡が出土し、注目される。全体の傾向は例年通り、付札・荷札が多い。滋賀県安土城跡出土の荷札は、調査地点である搦手道の性格を考える資料となりうる。福井県福井城跡(2)からは多くの木簡が出土したが、ほとんどが表裏両面に何らかの物品名を記した〇五一型式の付札である。山口県萩城跡からは、「鯨油」の荷札などが出土した。また徳島県徳島城下町跡では、武家屋敷に米などの物品を運び込んだ荷札が出土しており、地方知行制を裏付ける貴重な資料を提供している。

紙幅の関係でここには触れられない遺跡からも、興味深い木簡が多数出土している。本誌を熟読いただければ幸いである。

なお、昨年の研究会で報告した遺跡のうち、以下の遺跡については種々の事情により、本号では掲載に至らなかった。それは奈良県東大寺旧境内・飛鳥池遺跡(第九八次)、静岡県春岡遺跡群、千葉県大崎城遺跡、栃木県樺崎寺跡、山形県古志田東遺跡、北海道之上国勝山館跡、石川県指江B遺跡、香川県高松城跡、長崎県鷹島海底遺跡、鹿児島県浜町遺跡である。また、奈良県西橘遺跡・太田遺跡、京都府平安京跡左京九条二坊十五町(御土居跡)、兵庫県赤穂城本丸跡・姫路城跡・兵庫津遺跡、三重県桑名城下町遺跡、神奈川県佐助

ヶ谷遺跡、東京都汐留遺跡(汐留遺跡調査会調査分)・江戸城和田倉遺跡、長野県綿内遺跡群南條遺跡、岩手県仙人西遺跡、秋田県十二牲遺跡、石川県金石本町遺跡(第三次調査)・木ノ新保遺跡・四柳白山下遺跡、新潟県新堀村下遺跡・牧目館遺跡・平林城跡・春日山城跡・伝至徳寺跡、広島県尾道遺跡については本号にも掲載できなかった。これらの遺跡についても、早い機会に掲載できることを願う次第である。

なおまた、本号には「釈文の訂正と追加」の欄にも九件の報告をお寄せいただいている。「釈文の訂正と追加」を掲載するのも三年目となり、その編集も軌道に乗ってきたようだ。ただ、本欄の編集方針については、まだまだ議論すべき課題も多いように感じる。出土木簡を網羅し、釈文に正確を期すために、本欄がうまく機能するように努めていかなければなるまい。

木簡出土件数は年々増大していく。本誌の内容も充実していくが、一方で従来の編集体制では対応に限界が見えつつあることも事実である。本誌がどのような役割を担うことができるのか、不断に問い直す必要があるのかもしれない。

(吉川 聡)